

◆◆特集◆◆

★高速自動車国道法施行令の一部を改正する政令等について★  
(国土交通省 道路局 路政課／高速道路課)

平成27年11月18日に公布された「高速自動車国道法施行令の一部を改正する政令」及び「高速自動車国道法施行規則の一部を改正する省令」について紹介する。

.....

★道路メンテナンス年報★  
(国土交通省 道路局 国道・防災課 道路保全企画室)

国土交通省では、道路施設の点検の実施状況や結果等を調査し、平成27年11月に「道路メンテナンス年報」としてまとめ、公表した。本稿では、「道路メンテナンス年報」について概説するとともに、道路の老朽化対策の取組について、述べる。

◆◆道路法令 Q&A◆◆

★道路の区域内の自家発電設備の法的位置づけについて★  
(国土交通省 道路局 路政課)

道路の区域内の自家発電設備の法的位置づけについて解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★生活道路におけるハンプ等による速度抑制対策について★  
(国土技術政策総合研究所 道路交通研究部 道路研究室)

生活道路における交通事故の軽減には、車両の速度抑制が重要です。その対策のひとつとして、道路にハンプなどを設け、車両速度を出しにくくする方法があります。国総研では、これらの対策推進のための研究を行っており、その中でつくば市と連携して実施した通学路交通安全対策の実証実験について紹介します。

.....

## ★平成28年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、毎年8月を「ふれあい月間」として、道路の正しい利用や道路愛護活動の推進に努めていますが、この一環として、平成28年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

## ◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

### ★特殊車両通行許可申請の審査体制集約による事務効率化について★

—これまでの取組結果と今後の課題についての考察—

(北海道開発局 建設部 建設行政課／札幌開発建設部)

我々の暮らしに迅速な物流は必要不可欠であり、それを担う車両への特殊車両（以下「特車」という。）通行許可申請の審査にも迅速性・効率性が求められている。北海道開発局では、道路局発表の「道路の老朽化対策に向けた大型車両の通行の適正化方針」に基づき、平成27年度から事務効率化のため全国初の審査体制一箇所集約を開始しており、本論文では、これまでの取組結果や今後の課題について考察し、特車審査も含めた公物管理全般における業務改善の参考に資するべく報告するものである。

.....

### ★千葉県における道路の維持管理について★

～橋梁の長寿命化、効率的な舗装の維持管理、美化活動～

(千葉県 県土整備部 道路環境課)

千葉県が管理する道路施設の多くは、戦後の高度経済成長期に建設されたものが多く、今後、急速に高齢化を迎えることとなる。長寿命化や維持管理費の平準化などを目的として、平成22年に『千葉県橋梁長寿命化修繕計画』を策定し、計画的な修繕を行っている。また、効率的な舗装の維持管理を行うためのマネジメントシステムの構築、地域の方々との協同による美化活動も実施していることから、本稿では、千葉県における道路の維持管理の概要について紹介する。

.....

### ★安全で快適な自転車走行空間の整備について★

(市川市 道路交通部 交通計画課)

市川市では平成27年6月に『市川市自転車走行空間ネットワーク整備計画』を策定しました。本稿では、計画策定までの流れとともに、整備路線及び整備形態等についてご紹介いたします。

## ◆◆編集後記◆◆

写真は、記憶にとどめておきたい事柄を形として残してくれます。昨年末の大掃除の際、学生時代のアルバムを見つけました。数十年前の思い出ですが、写真を目にし、文化祭でお化け屋敷をやったことや体育祭の応援団に志願したこと、さらに、社会科見学では、国会議事堂や飲料工場を訪れたことなど、当時の記憶が鮮明によみがえり懐かしさが込みあげてきました。

私の学生時代には、写真といえば、フィルムカメラでの撮影でした。この頃、撮影した写真の仕上がりを確認するためには、現像という工程を経なければならず、目にするまでには数時間～数日を要していました。また、1個のフィルムに撮影できる枚数には制限（24～48枚撮り）があり、残りの枚数を気にしながら撮影していたことを思い出します。最近では、技術の向上により高画質・高性能となったデジタルカメラが低価格で手に入るようになったので、私もデジタルカメラを使って撮影を楽しんでいます。また、いつも持ち歩いている携帯電話（スマートフォン）にもデジタルカメラ機能が搭載されているため、撮りたいと思った時に、その出来事を写真に残すことができるようになりました。

デジタルカメラは、撮った写真をその場で確認できるので、気に入らなければ撮りなおすことができます。また、保存データの容量に合わせて不要な写真は削除することもできるので、ついシャッターを押す回数が増えてしまいます。それに比べて、フィルムカメラは、枚数に制限があることで、むやみやたらにシャッターを押すことなく、1枚1枚を丁寧に選んで撮影していたような気がします。また、目にするまでに時間がかかることも「どんな写真に仕上がったかな」というワクワク感があり、出来上がるまで楽しみに待っていたように思います。

今、美味しそうな料理や街中のビル群から覗き見える夕日、ペットの可愛い寝姿など、日常生活の中で記憶にとどめておきたい事柄や人に見てもらいたい瞬間をたくさん撮りためています。そのため、写真のデータは増加する一方ですが、米国の心理学者、リンダ・ヘンケル氏は、「記憶にとどめるには、写真を撮りためることよりも、撮った写真を眼にする機会を持つ必要がある」と述べています。撮っただけで満足することも多くありますが、きちんとデータを整理して写真を鑑賞する時間を持ち、思い出を心にとどめておきたいと思っています。（K）